

## ユニットリンク型年金

### 柔軟な退職後年金商品 (Retirement Solution) へのニーズの高まり

退職後のファイナンシャルプランを考えると、「安全性」と「柔軟性」のどちらかを選ぶことになります。終身年金は、年金受給者の生涯にわたり、経済的な安全性をもたらす一方、一度加入すると、年金受給者は保険会社の運用判断とリターンの前提に制約を受けます。保険会社が投資利回りを保証しているため、通常、これはかなり保守的な前提となっており、その結果、特に低金利下では、大抵、年金レートは魅力的ではありません。

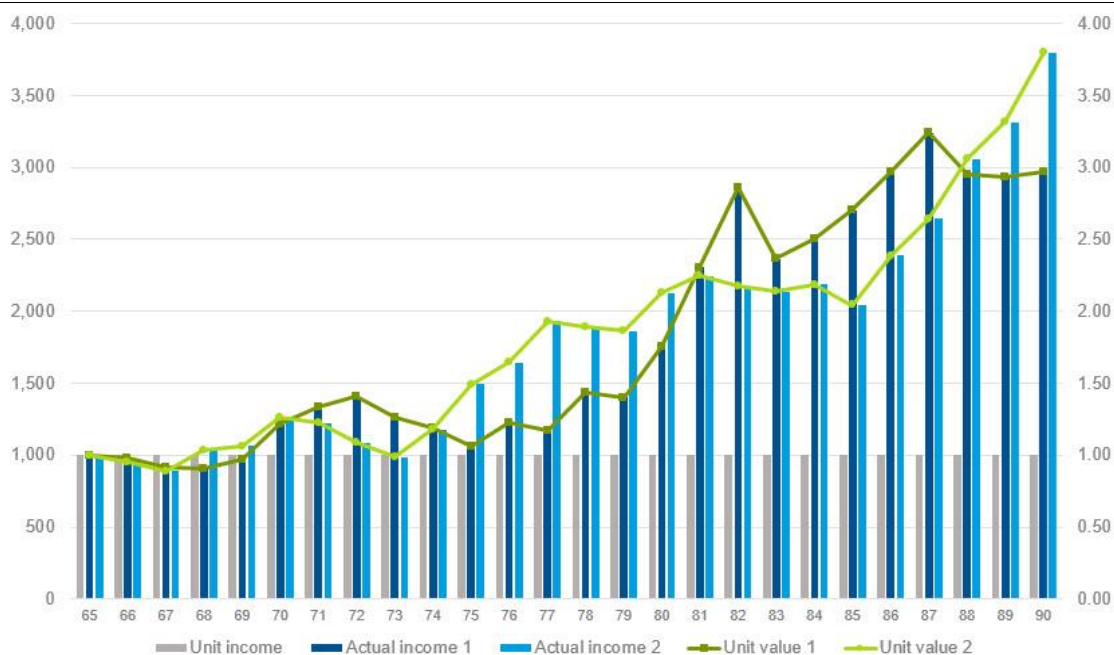
しかし、運用リスクを負う高齢者層が増えてきているため、引出オプション付年金 (drawdown solutions) のような、より高い投資リターンを得られる一方で、退職後、かなり後になって経済的に不安定になるリスクを抱える商品を選択します。その結果、終身年金のプロバイダー (保険会社等) は、自社の商品が消費者のニーズを満たしていないため、マーケットシェアを失う危険性があります。

### 商品コンセプト

ユニットリンク型年金の仕組みは、シンプルかつ効率的です。通常の終身年金と同様に、退職時に一時払保険料を支払います。ユニットリンク型年金では、保険契約者が、どのインデックスに投資するか選択し、一時払保険料を、投資したインデックスに応じた運用ユニット数に換算します。契約者は、ユニットリンク型年金として、終身にわたって、毎年受け取るユニット数が保証されます。ユニット価格は、投資成績により変動します。実際の年金受取額は、ユニット価格に左右されるため、保険契約者は運用成績の変動を見込みます。標準的な終身年金に比べて、保険契約者の投資リターンが向上する可能性があります。同時に、投資利回りが減少する可能性もあります。

毎年支払われるユニット数は生涯保証されるため、長寿リスクは保険会社に残ります。図 1 は、ユニット価格の異なるシミュレーションに基づく、ユニットリンク型年金の 2 つの結果を示しています。

図 1: ユニットと実際のインカム



標準的な終身年金と同様に、ユニットリンク型年金でも、連生年金、増加年金、保証期間、死亡給付など、様々なオプションを組み合わせて提供することができます。

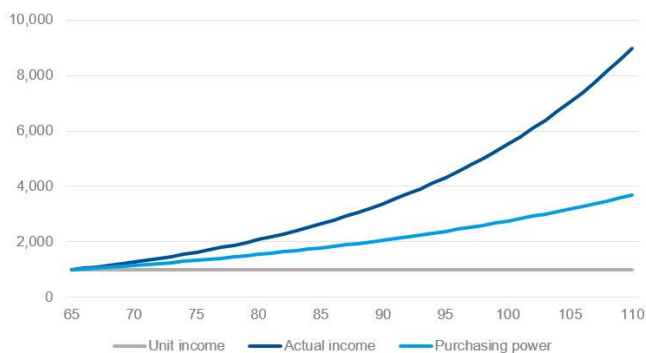
さらに、運用部分は契約者のニーズに合わせてカスタマイズすることができます。例えば、あらかじめ運用内容を決めたり、ユニットの最低価格を保証したりすることができます。もちろん、このような保証には費用がかかります。

### 購買力に着目

通常、年金からの定期的な収入は、時間の経過とともに一定の購買力を持つようになり、その結果、インフレとともに増加するはずですが、

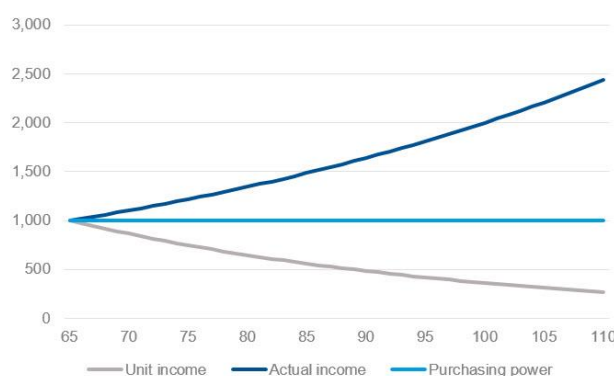
保険会社が一定のユニット数を保証し、選択した運用内容の期待収益が期待インフレ率よりも高ければ、実際の年金収入は高齢になっても高額になる可能性が高くなります（図2参照）。高齢者の実際の支出は、高齢になるほど減少することが多いです。

図 2: ユニット・インカム、インフレ率 2%、実際のリターン 5%



予想インフレ率と期待収益率の差に一致する一定の係数で、時間の経過とともに支払われるユニット数を減らしていくことで、一定の購買力と共に、期待年金額を実現することができます（図3参照）。

図 3: ユニット数 3%減少、インフレ率 2%、実際利回り 5%



### プロバイダーにとっての利点

- より魅力的な年金レートを求め、運用リスクを負うことを好むターゲット層へのアクセス。
- 商品の種類が増え、オーダーメイドの退職後年金商品（Retirement Solution）を提供できる革新的な保険会社としてのイメージが向上します。
- 運用と保険の明確な区別が可能になります。

### ハノーバー・リーとの提携

ハノーバー・リーのパートナーは、様々な形で協力関係の恩恵を受けています：

- 再保険契約を通じた長寿リスクの共有とキャッシュフローの安定化。
- ハノーバー・リーのデータ分析チームが継続的に更新する長寿の前提条件のリスク適切な設定。
- 最新の行動経済学を考慮した商品開発のサポート。

市場で、初の商品を開発するか、成熟市場で商品提供の強化を目指すかに関係なく：長寿リスクの再保険の世界的リーダーであるハノーバー・リーは、お客様の年金ビジネスにとって理想的なパートナーです。私たちは、お客様とチームを組むことを楽しみにしています。